

# 本との出会い、そして図書館

高尾 茂治

①Arthur Rubinstein. *Erinnerungen* ②大ゴアニストは語る、原田光子訳編③ピアニストその人生、園田高弘④シヨパン紀行、堀内みき(文)堀内昭彦(写真)共著。4冊もあげてしまいました。映画評論家ではありませんが本って本当によいものですね。①はルービンシュタインとホロヴィッツ、レオ・シロタ等との関係を踏まえて読むと面白いです。②は古い本ですが長く読み続けています。ピアノの学び方について歴史上の大ピアニストが丁寧に語っています。③国際的な活躍をしたピアニスト、のエッセイですがピアノを学ぶ人に大きな示唆を与えています。先生は1995年秋、国立音楽大学公開講座で講演と演奏をなさいました。この時の感動は今も私の記憶に強く残ります。④は美しい写真とエッセイでシヨパンの一生を辿った本ですがシヨパンの曲を弾く時にそばに置いて読む本がまた1冊加わりました。

図書館が地下にあったこともとても懐かしいです。そのころの図書館と現在の図書館を比較いたしますと夢のようです。私はいつの間にか諸先輩が次から次へとご退職されこのような事を後輩の皆様にお伝えする立場となりました。国立音楽大学ピアノ科を卒業、ウイーンに留学、音楽学者、評論家として旺盛な活動、母校の教授を務められた恩師<sup>高尾</sup>、啓成先生(1902~1994)の私設図書館をある時見せていただきました。先生の数多くの著書の1行の記述のためにこれだけの書物(ドイツ語の本多数)も必要と言う事がよく解り圧倒され先生の本もより真剣に読み直しました。ザルツブルグのモーツァルテウムと言う音楽大学に留学した時も図書館のお世話になりました。所定の手続きをして希望する楽譜が手に入ったとき、留学も一味違うものとなりました。きつと4月に入学された新入生も同じ状況の折に入学の喜びを感じられる事でしょう。国立音楽大学附属図書館への感謝の気持は一言では申せませんがその中の一つ。数年前ピアノ科のクラス授業、ピアノ音楽の宗教性を取り上げるにあたり、リストのピアノ作品①鳥に説法をするアッシジの聖フランチェスコ②波の上を渡るパオラの聖フランチェスコに関連する2枚の宗教画を大学所蔵資料の他上智大学をはじめ関係機関に問い合わせをしてたくさん資料を集めていただき、お陰様で授業に大変役立ちました。国立音楽大学附属図書館はこれからも同大学の大きな魅力の一つとして存在される事を確信いたしております。

● たかおしげはる 本学准教授(ピアノ)

\* *Erinnerungen* 日本語版『華麗なる旋律』(J106-391)、『大ピアニストは語る』(C23-186他)、『ピアニストその人生』(J106-339)、『シヨパン紀行』(J106-909)